

ハッピー通信

49

ハッピー通信では毎月、当社のオリジナル賃貸住宅「ハッピーマンション」「ハッピーマイホーム」の現オーナー様、もしくは検討中のオーナー様に、コンサルティング事業部の高橋がインタビューを行い、その後の経営状態やサービスに関する感想などをお伺いします。



オーナーインタビュー 90

いわき市在住

E様

高橋：本日は、いわき市内でも一等地と言われる場所に、ご夫婦でお住まいのK様に、インタビューをさせていただきました。K様、こちらの宅地は相続で所有されたのですか？

K様：その通りです。太平洋戦争の終戦直後に祖父から引き継いだ宅地です。父は商売をしており、私は公務員でした。父が商売を他の人に引き継がせたのと同時に、私がこの宅地と家を譲り受けました。

高橋：その当時と比べると、周辺の状況も大きく変わりましたよね。もう50年以上前のことですからね。

K様：田んぼの中に家があり、周囲には工場や資材置き場が点在していました。そのような場所でも区画整理事業が行われ、大きな道路も開通し、さまざまな商店が建ち並びました。とても賑やかな場所になりました。近所に住んでいた方々はほとんど引っ越されました。今は、この土地をどのように孫へ引き継ぐべきかを考えています。

高橋：お子さんではなく、お孫さんにですか？

K様：子供たちはそれぞれに成長してくれたと思っています。家を継ぐ孫には、この場所でこれからも生活してほしいと願っています。

高橋：家が無くなってしまう、つまり跡継ぎがいなくなるのは寂しいことですよね。だからこそ、先代の方々もいろいろと考えて引き継がれてきたのでしょう。K様が、入居率 98%を誇るハッピーマンションをご検討いただけることは、非常に素晴らしい選択だと思います。K様、本日はありがとうございました。

一等地といわれる宅地にお住まいの（代々続く）方々は、周辺が賑やかになることに対して、喜ぶ方とそうでない方に二極化します。最も喜ばれているのは、「お金が入ることになった」方々です。それは売却による一時的なお金ではなく、継続的な収入が得られるようになった方々で、その中でも特に多いのが賃貸住宅のオーナー様です。月に数十万円、あるいは数百万円という収入があるケースもあります。

インタビューより一言

コンサルティング事業部
課長

タカハシ ミツリ

高橋 光則



こんにちは、コンサルティング事業部の高橋です。この暑さ、なんとかしてほしいと思われている方も多いのではないのでしょうか。炎天下の中で働いてくださっている職人さんには本当に頭が下がります。以前は、塩を持参していた職人さんもいらっしゃいました。当時の水分補給は水かお茶で、ジュースを飲むと疲れるからと叱る親方もいたものです。科学的な根拠があるかは分かりませんが、あの頃の方法（塩と水・お茶中心の水分補給）で働いていた職人さんたちは、今でも現役で元気に活躍されています。やはり昔ながらの知恵には、理屈では説明しきれない力があるのかもしれないですね。

